

— 目 次 —

6. 今後の課題	6-1
----------------	-----

6. 今後の課題

本業務における検討結果を踏まえた上で、今後の検討課題を以下に示す。

(1) 利用者動向調査

住民アンケート調査や道の駅利用者アンケート調査より外かん開通による個人の行動が変化していること、また、事業所ヒアリング調査よりヒト・モノが円滑に動き、サービスの向上だけでなく、従業員の労働環境改善・物流効率化が発現していることが把握された。一方、経済発展という波及効果は即時に発現しない可能性があるため、今後も継続的に事業所ヒアリングを実施することが必要と考える。

(2) 交通状況調査

ETC2.0 プローブデータ、ETC ログデータ、直轄・県警トラカン、交通量調査結果等、多量な交通系ビッグデータを分析し、外かん開通により交通問題の改善効果が確認された一方、交通問題が新たに発現した箇所も確認された。新たに問題が発言した箇所の一つとして外環道三郷 JCT～川口 JCT があるが、引き続き原因を分析することが重要である。

三郷南 IC～高谷 JCT 利用車両の交通流動について、ETC2.0 プローブデータでは測位の関係上、分析が困難であった。今後は、ETC ログデータや貨物車プローブ等の他データと組合せて分析することが望ましい。

(3) 周辺状況分析

東京外かく環状道路（千葉県区間）開通に伴う整備効果について、事業所ヒアリングを活用した資料に関しては、公表する場合にヒアリング事業者に内容を確認いただき、企業の意見と乖離した資料となっていないか確認する必要がある。

外かん開通により周辺道路で課題が発現した箇所について、引き続きモニタリングし、要因を分析するとともに対策案を検討することが望ましい。

(4) 地域の交通に関する分析検討

携帯プローブを活用し課題箇所の抽出を行ったが、携帯プローブデータは取得件数が少ないため、休日の分析を行う場合は数ヶ月分活用することが望ましいが、平日と休日とでは大きな変化は無いと思われる。また、自動車分布を分析する場合、携帯プローブではデータ取得頻度が3～5分のため、移動速度が高い路線はデータが落ちないことが知見として得られた。そこで、自動車の分布はETC2.0の活用が望ましい。